

千葉県  
ヤマビル対策  
マニュアル





## もくじ

4p・・・はじめに

5p・・・ヤマビルの写真

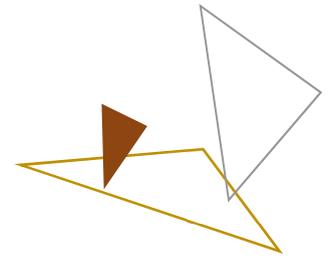
6p・・・①ヤマビルとは

8p・・・②ヤマビルの被害

10p・・・③ヤマビルの防除



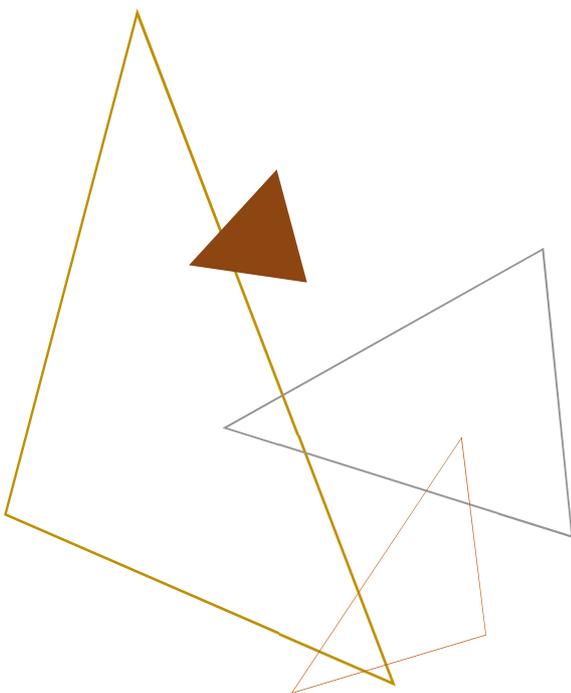
## はじめに



本県においては昭和50年代に鴨川市（旧天津小湊）を中心とする地域でヤマビルによる吸血被害が問題化しました。

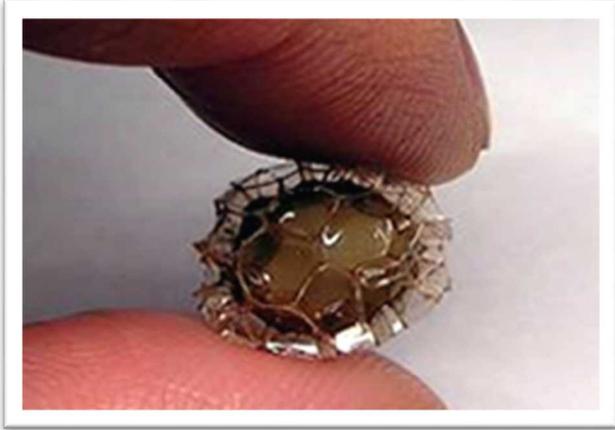
さらに、ヤマビルを運搬する野生動物の分布の拡大に伴い、ヤマビルの分布拡大も続いているところです。

本マニュアルは、農林業従事者、有害鳥獣捕獲事業に従事する捕獲従事者、観光客や登山者等の方々を対象に作成しており、ヤマビルの生態や吸血被害を受けたときの対処法、被害を受けないための防除方法等の基礎知識についてまとめています。安心して野外での活動をするために本マニュアルを活用いただけることを願っています。

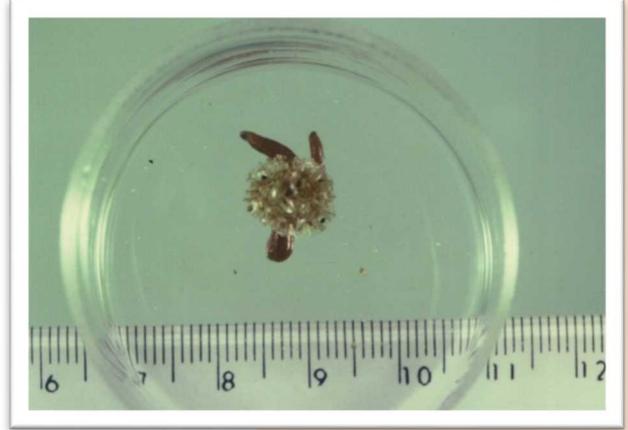


## ■ヤマビルの写真

《卵塊》



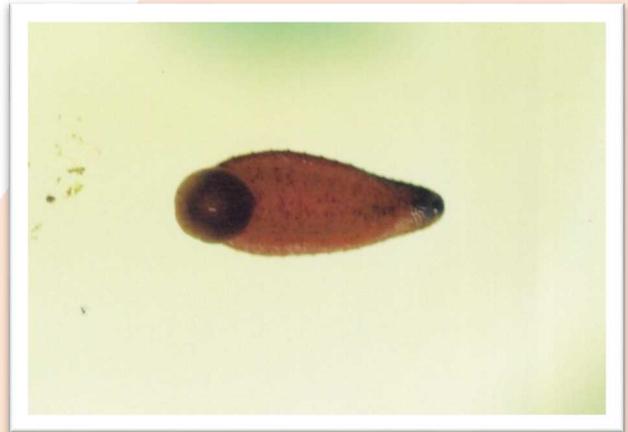
《孵化》



《ヤマビル》



《ヤマビルの吸盤》



《吸血被害》



《シカに付いたヤマビルの吸血痕》



# 1 ヤマビルとは

## ■形態

- 体長：1～5センチメートル  
体の腹面側の前後に吸盤があります。
- 眼点：5対  
明暗を感じる程度です。
- 口：前吸盤の中央にあります。  
口の中には顎が3個Y字状にあり、  
それぞれ約90の細かい歯があります。

## ■分布

鴨川市（旧天津小湊町）を中心に君津市、  
大多喜町、勝浦市、市原市に生息しています。

## ■生態

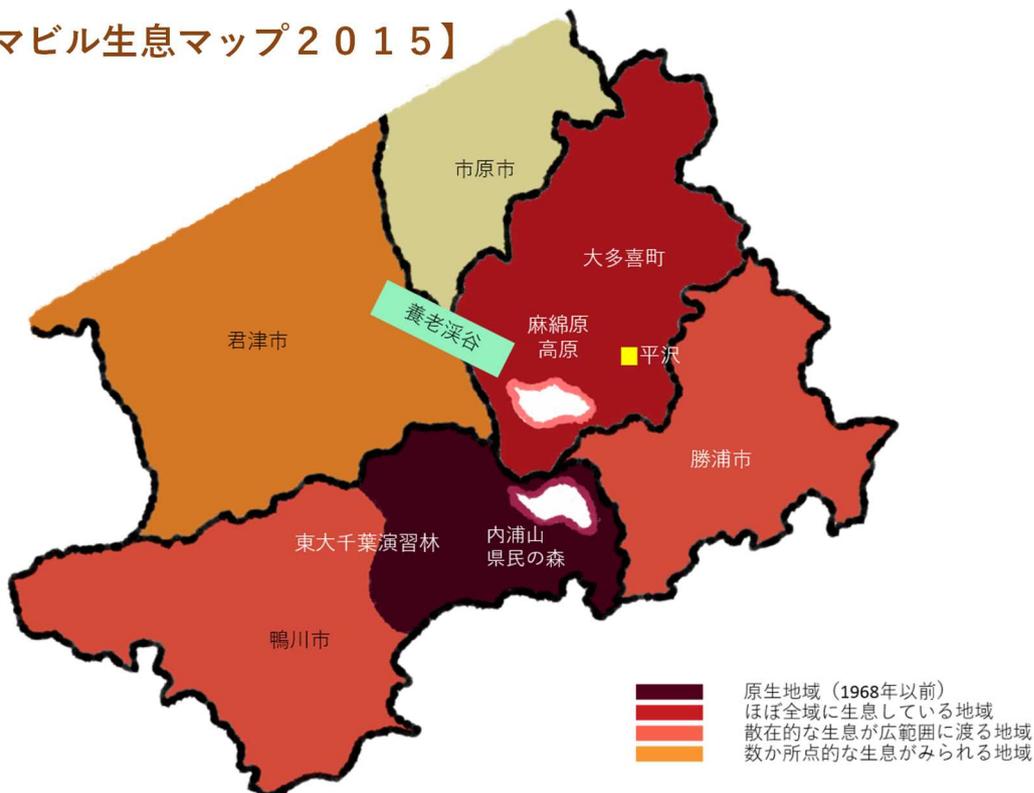
活動期は4月～11月で、特に雨中、雨後は活動が活発になります。※7℃程度から活動し始め20℃前後が最も活発になります。

冬になると、土中、苔や落葉の元で過ごします。

吸血の対象となる動物（ニホンジカ等）や人が近づくと、吐く息に含まれる炭酸ガスや体温等を感知し、敏速に尺取虫運動で対象動物に接近し、取り付いて吸血をします。吸血時間は1時間程度で、ヤマビルの体重の10倍程度吸血します。



## 【千葉県ヤマビル生息マップ2015】



「勘違いされがちだけど、実は跳ばないし、木の上にもいないんだ…つまり上から落ちるなんてことは無い！こっそり身体に這い上がっているんだよ。」



## ■繁殖

ヤマビルは雌雄同体であり成体は吸血した後、1カ月後に卵を土中、苔の下等に産み付けます。

## ■いろいろなヒル

ヤマビル、チスイビルはゴカイ類、ミミズ類と同じ環形動物の仲間です。コウガイビルはウズムシ類（プラナリア等）と同じ扁形動物に属し、ヒルの仲間ではありません。

ヤマビル  
チスイビル



林等に生息  
(陸生)



水田・池等に生息  
(淡水生)

コウガイビル



住宅地域の植栽等に生息  
(陸生)

## ■拡大

ゆうけつしゆりゆう

ニホンジカ等の足に有穴腫瘍といわれる穴をあけ、そこにヤマビルが入り込み半寄生の状態です。この穴に入るにより、ヤマビルは脱落せずにとっぴりと時間をかけて吸血できるうえ、遠くまで移動・分散ができます。

このように、ヤマビルは栄養と繁殖を野生動物に依存しながら生きています。

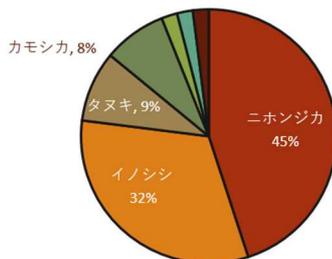


ヒル付着

## 吸血動物種

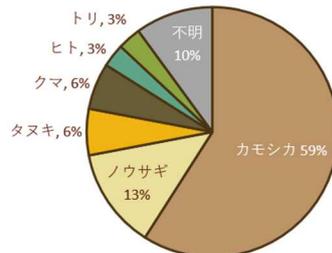
神奈川県 (2007)

サル, 2%  
ヒト, 2%  
キジ, 2%  
総検査数41個体



秋田県 (1997)

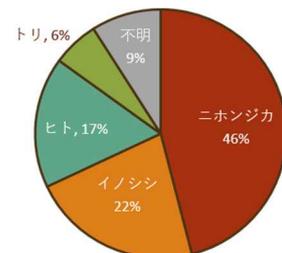
総検査数61個体



※調査当時秋田県には、ニホンジカやイノシシが生息していなかった。

兵庫県 (2004)

総検査数80個体



# 2 ヤマビルの被害

## ■被害

吸血する際には吸血時の痛みを少なくしたり、血液を凝固させないヒルジンという物質を出すため、本人は吸血されていることに気がつかないことが多く、さらになかなか血が止まらずに、1時間以上出血します。

吸血後は、湿疹やかゆみが生じることが多く、傷跡が半年ほど残る可能性があります。

なお、ヤマビルは感染症等を媒介することはありません。

形態的に嫌悪感を持つ場合があり、集団で接近し這い上がってくるので恐怖感を抱くことがあります。

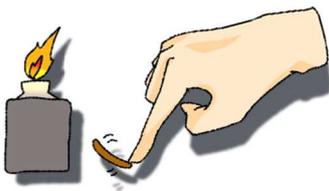


## ■吸血をされたら

### ①吸血中のヤマビルをとる

《簡単なヒルの取り除き方》

- ・吸盤をはがすようにして爪でこそげる。
- ・塩や消毒用エタノール等をヒルにかける。
- ・ライター等の火を近づける。（やけどに注意）



### ②ヤマビルを駆除する

△吸血したヒルは産卵をして増える！！△

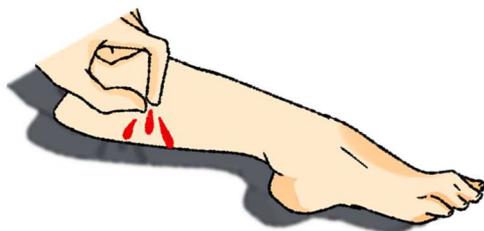
《身近な方法》

- ・塩や消毒用エタノール等をヒルにかける。
- ・殺ヒルスプレーや虫よけスプレーをかける。
- ・ライター等の火をつける。（やけどに注意）
- ・ヤマビルをハサミで切る。

※踏みつぶしただけでは死なない。

### ③傷口を洗う

- ・指でつまんでヒルジン＜唾液成分＞を絞りだす。



### ④絆創膏をはる

- ・抗ヒスタミン剤等の軟膏を塗ってかゆみを抑える。



# 被害から身をまもるために *check point*

## ✓確認しよう！

- 帽子をかぶる
- 長袖・長ズボン（肌の露出を抑える）
- シャツの裾をしまう
- ズボンの裾を靴下にしまう
- 靴に忌避剤を吹きかける



## ■忌避剤等について

長袖長ズボン  
+  
帽子

### 食塩又は木酢液

- ▶ 濃い食塩水（濃度20%）または木酢液の原液に幅10センチ以上のサポーターやタオルを2〜3日浸し乾燥後、首や長靴等に巻き付けると隙間からのヤマビルの侵入を予防することができます。
- ▶ 濃い食塩水または木酢液の原液を作業時に長靴や巻き付けたサポーターに散布するとヤマビルの侵入を防ぐことができます。
- ▶ 長靴等にサポーターを巻き付ける場合、長靴の上部とズボンを密着するように巻き付けると効果が高まります。

### 市販の忌避剤

- ▶ 市販されている忌避剤を使用上の注意に従って使用してください。
- ▶ 農林作業を行うときは、上記の方法に加えてズボンの裾部分をガムテープ等で密封するとヤマビル被害を防ぐことができます。



☞ 直接吹きかけても良い。むらなく塗布する。

# 3 ヤマビルの防除

## ■環境管理

ヤマビルは乾燥した環境を嫌います。日当たりや風通しを良くし、ヤマビルが生息しにくい環境づくりをすることが大切です。また、人が頻繁に出入りする場所に防除効果のある薬剤を撒くことにより、吸血被害を軽減させることができます。

- ①草刈を行う。(通年)
- ②落葉の片づけ
- ③林地の落ち葉かき  
(枯れ葉を焼却し、その灰を散布すると駆除効果が上がります。)
- ④日当たりを良くし、地面を乾燥させる。
- ⑤殺ヒル剤を撒く。



■殺ヒル剤 いずれも、雨により防除剤が流されると効果が薄れることがあります。

食塩水	濃度20% ヤマビルに直接付着するよう散布すると効果的です。
	<ul style="list-style-type: none"><li>・畑地、水田、井戸等に流入する場所で使用しないでください。</li><li>・くり返し散布すると、植物、土壌等に影響が出る場合がありますので使用に注意してください。</li></ul>
木酢液	濃度50% 1平方メートルあたり約0.5リットルを散布します。 下草を刈り取った後、ヤマビルに直接付着するよう散布すると効果的です。
	<ul style="list-style-type: none"><li>・畑地、水田、井戸等に流入する場所で使用しないでください。</li><li>・植物によっては、変色、枯死することがあります。植木等の周辺での使用は注意してください。</li><li>・皮膚粘膜を刺激することがあるので、使用の際には、目に入らないよう注意し散布後は手、顔等を良く洗ってください。</li><li>・散布後はしばらく臭気が続きます。衣類に付着すると臭いが取れにくくなるので注意してください。</li></ul>

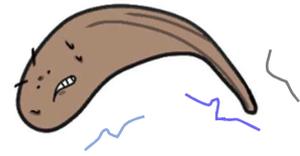
☞ ヤマビルは落ち葉がなく日当たりの良好な林内では生息できない。



☞ 殺ヒル剤散布の様子



「日光は本当に苦しいぞ！  
塩分もやめてほしいな…  
乾燥したらもう生きていけないんだ！」



## ■野生動物の管理

ヤマビルによる吸血被害を拡大させないためにはヤマビルの運搬役となるニホンジカやイノシシ等の野生動物を生活圏に近づけさせないようにすることが重要です。

- ①防護柵、電気柵の設置
- ②個体数管理（有害鳥獣の捕獲）
- ③耕作放棄地の管理
- ④農作物の管理  
（放棄農作物等が野生動物の餌にならないように注意する。）

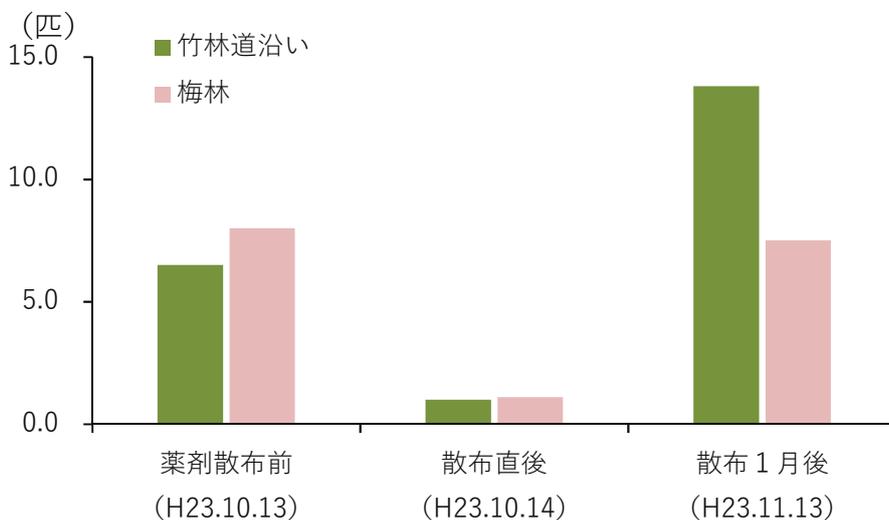


### 参考

県では、平成23年度から24年度にかけて大多喜町内で薬剤散布の効果試験を実施しました。5分間人おとり法\*により、薬剤散布を行う前後でのヤマビルの生息密度の変化を調べました。

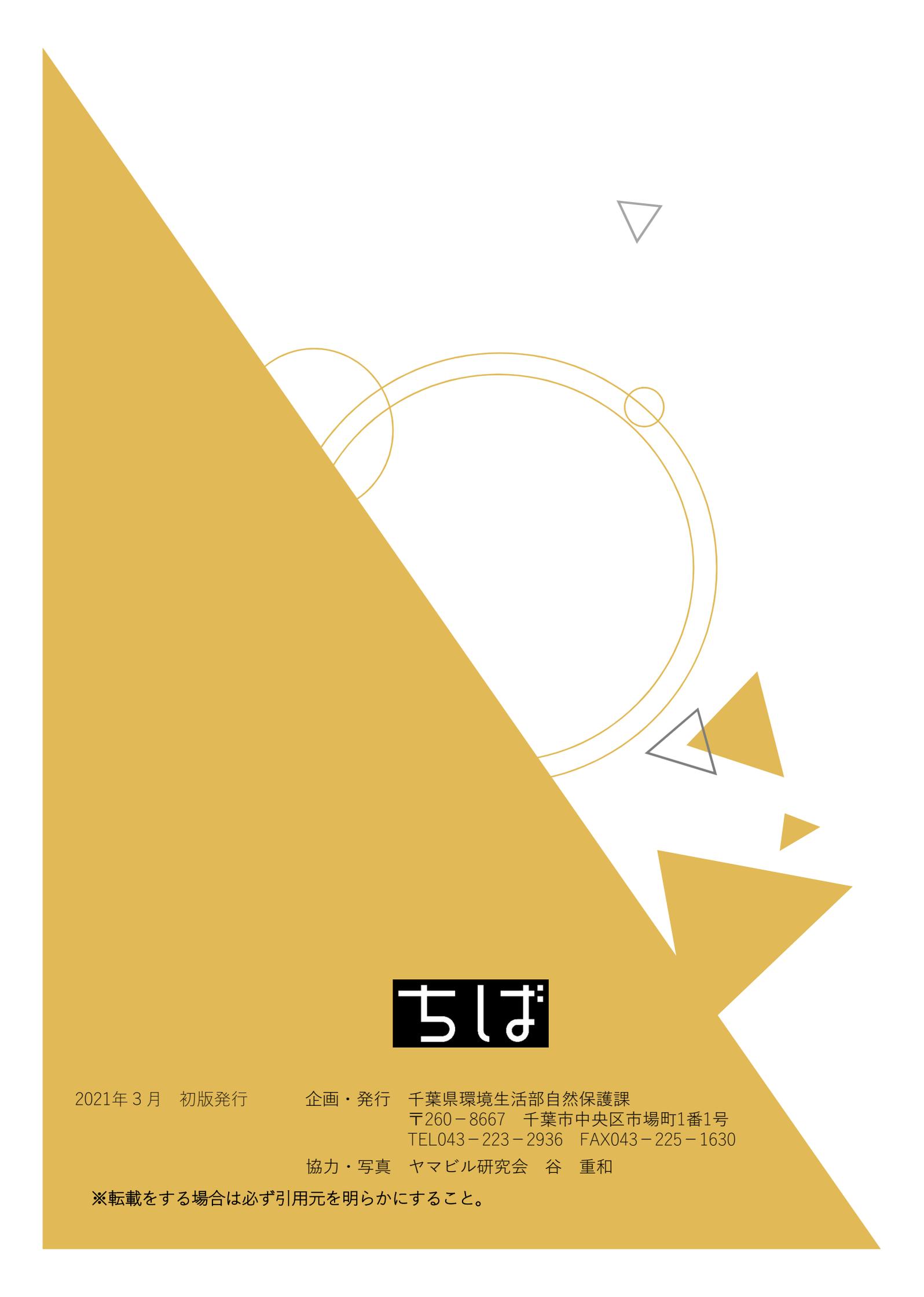
平成23年度の試験では、薬剤を散布したことで、集まってきたヒルの数が6～8匹から1匹へと減少しました（図）。しかし、1か月後には7～14匹と薬剤散布前の状態まで戻っていました。平成24年度の試験でも、散布直後には生息密度が減少し、半年後には密度が回復するという同様の結果が得られています。

このことから、薬剤散布は短期的には有効な対策ですが、ヤマビルを長期的に減らす効果は薄い\*\*ものと考えられます。ヤマビルの防除では、薬剤散布だけに頼るのではなく、環境管理や野生動物対策も含めた総合的な対策が必要といえるでしょう。



\*人おとり法：ヤマビルの生息数の目安を把握するために、調査地点を決め、調査者の足元周辺の一定範囲内に集まってきたヤマビルの数を数える方法。

\*\*ヤマビルの生息数が回復する理由としては、時期によっては薬剤散布後に孵化して成長すること、野生動物により他地域から運び込まれること等が考えられる。



# ちび

2021年3月 初版発行

企画・発行 千葉県環境生活部自然保護課  
〒260-8667 千葉市中央区市場町1番1号  
TEL043-223-2936 FAX043-225-1630

協力・写真 ヤマビル研究会 谷 重和

※転載をする場合は必ず引用元を明らかにすること。